

「海をきれいに、安全に、秩序正しく」

海上保安友の会札幌支部

会報（第 38 号）



令和 3 年 3 月 16 日発行



表紙写真（えさん GB と潜水士（高橋司理事提供））

海上保安友の会札幌支部事務局

〒047-0007

小樽市港町 5 番 2 号 小樽地方合同庁舎

小樽海上保安部 管理課 内

電話 0134-27-6118 F A X 0134-23-9700

会員数 165 名（正会員 86 名、家族会員 79 名）（R3.3.15 現在）

## ～令和2年度 秋冬の活動～

小樽海上保安部による活動の一部を紹介します。

### ① 青い羽根募金活動（令和2年9月）



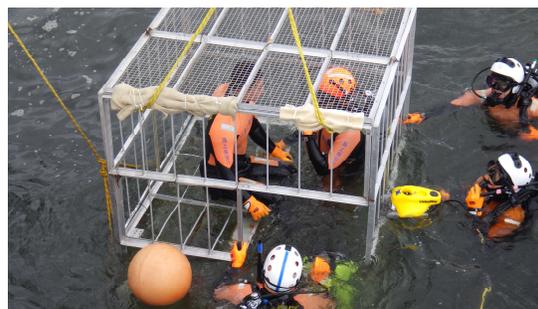
青い羽根募金を「（公社）北海道海難防止・水難救済センター」へ手交

左：「（公社）北海道海難防止・水難救済センター」専務理事 久保田氏

中央：「小樽みなとライオンズクラブ」会長 中井氏

右：藤本小樽海上保安部長

### ② 巡視船えりも、巡視船ほろべつ合同潜水訓練（令和2年10月）



### ③ 巡視船えさん原子力防災訓練参加（令和2年10月）



④ 鈴木直道北海道知事からの感謝状受賞

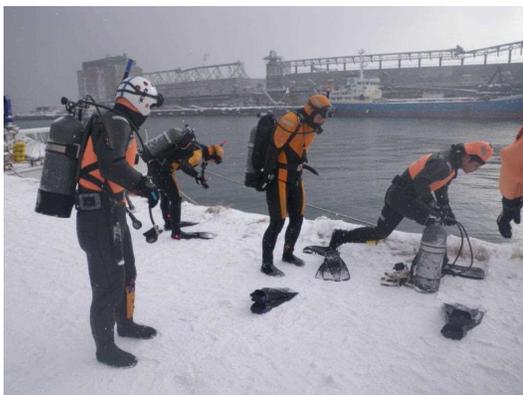
（令和3年1月：漁業秩序維持への貢献）



前列左：藤本小樽海上保安部長

前列右：北海道知事代理 北谷後志総合振興局長

⑤ 巡視船ほろべつ冬期潜水訓練（令和2年12月、令和3年2月）



⑥ しれとこ制圧訓練等（令和3年2月）



令和 2 年 9 月 25 日

## ～札幌市の小学生が修学旅行で巡視船えさんを見学～

札幌支部事務局

9 月 25 日札幌市立手稲中央小学校 6 年生の児童が修学旅行で小樽市内を訪れ、停泊中の巡視船えさん船内を見学しました。

バスで岸壁に到着した児童は密を避けるため 5 名ずつのグループに分かれて交代で乗船、乗組員の案内で船橋に上がり、航海計器、操舵装置や機関操縦盤、甲板上のポートなどについて説明を受けました。



注意事項を説明している様子

船橋見学の様子

船橋を見てまわった子供たちは巡視船えさんの飛行甲板に移動し、配られたロープを使って基本結索を乗組員の指導を受けながら実習しました。



結索実習の様子

子供たちにとっては巡視船に乗るのは初めてのことで、岸壁で待っている引率の先生がカメラを向けると船の上から大きく手を振って笑顔で応えていました。

巡視船見学後子供たちは習ったばかりの基本結索をバスに戻ってから繰り返し練習してい

ました。

新型コロナウイルス感染の影響で札幌市内の小学校では運動会や校内行事が中止、縮小されており、さまざまな活動が制限されています。その中でも子供たちに良い思い出を残してあげたいとの手稲中央小学校の先生方の熱い気持ちを受けとめて、今回小樽海上保安部では感染予防対策をしっかりとったうえで協力対応することとなりました。

この日巡視船えさんに乗船した児童数は偶然にも海保の緊急通報番号と同じ 1 1 8 で、この子供たちの中に将来の海上保安官がいると予感させました。

令和 3 年 2 月 1 2 日

## ～STVどさんこワイド179の取材～

札幌支部事務局

令和 3 年 2 月 7 日、8 日、小樽海上保安部巡視船ほろべつ、小樽サンフィッシュスポーツクラブ、神威岬灯台において、STVどさんこワイド 1 7 9 の取材が行われました。番組のコーナー名は「島太星の北海道トコトンお仕事体験記」というもので、タレントの島太星さんが北海道の暮らしを支える知られざる大事な仕事を体験する企画です。巡視船ほろべつにおいては、消火訓練、船内搜索訓練、島さんの歌唱、小樽サンフィッシュスポーツクラブにおいては、潜水訓練、神威岬灯台においては、灯台の点検が行われました。タレントの島太星さんとSTVの岡崎アナウンサーが、海上保安庁の仕事の大事さや大変さを体験し、海上保安庁のPRをしてくださいました。



【巡視船ほろべつで歌を歌う島さん】

【潜水訓練の取材をする島さんと岡崎さん】



【神威岬灯台の点検の取材をする島さんと岡崎さん】

令和 2 年 1 0 月 1 2 日

## 灯台記念日に寄せて ～幌灯台を初めて訪れて～

高橋成香

実家が室蘭海上保安部の近くにあり、母の知り合いが保安部にいたのが縁で、私は小さいころから港にある巡視船を見て、海上保安庁を身近に感じて育ちました。海上保安官になった中学のクラスメートもいて、今では海上保安友の会会員として海上保安庁を応援させていただいています。

私は、巡視船も好きですが、より灯台に魅力を感じていて、灯台の一般公開にも欠かさず参加し、これまで小樽海上保安部管内のほとんどの灯台と道内各地の灯台を見て回りました。家族で行く旅行でも名所となっている灯台を巡るほど灯台が好きです。ところが、このところ私自身が忙しくなり、保安部のイベントにも参加できていないうえ、新型コロナ禍の影響も重なり、すっかり大好きな灯台から遠ざかっていました。

そんな折、小樽海上保安部長にお会いする機会があり、「幌（ぼろ）灯台」が公開されると伺いました。公開予定の日は「予定のない日曜日」、幌灯台は行ったことのない謎の灯台、灯台を観に行くのは久々のこと、是非行かなくてはと決心しました。

当日は雨予報、札幌市内の家を出るときから雨に遭いながら憂鬱な気分で車を灯台へ走らせると、徐々に天気は回復し、到着した時には日が差して雨も上がりました。

私にとっての幌灯台の謎は、国道から灯台敷地への入口を示す目印がなく、灯台に通じる道はどこなのかということでした。これまで訪れた幌以外の灯台では目印や案内があり、なくてもここだと想像がつく進入路があったものでした。

当日は事前に保安部の方から道順を聞いていたので駐車スペースまで難なくたどり着きました。そこには保安部交通課の方が立っていて、灯台への進入路を案内してくれました。

両脇から覆い隠すように草木が生い茂った道を進むと、急に視界が開け突き当りに紅白縞模様の大きな灯台が姿を現しました。

灯台に到着するとそこには保安部交通課の方だけがいて、私がこの日最初の見学者だったことがわかりました。一番乗りしたおかげでたっぷり時間をかけて幌灯台の話を聞くことができました。この灯台は昭和 61 年に雄冬灯台の代わりに建てられたこと、地上から頂部までの高さが北海道内の灯台では 4 番目の 2 5 メートルであることなどを教えてもらいました。灯台内部の階段は幅広くらせん状になっていて、100 段ほどの階段をのぼると灯室に上る直前だけが少し狭く急な階段になっていました。その階段を上るとそこには新しい回転式灯器が設置されています。灯

器のある部屋から踊り場への出入口をくぐるとそこは海面から約 60メートルの高さがあるそうで、積丹半島から雄冬岬にかけての石狩湾沿岸、その外側にひろがる日本海を一望することができました。

雄冬岬といえば冬期に近くを走る国道が海から打ち上がる波で頻繁に通行止めになり、陸の孤島と言われる場所です。海上交通にしても雄冬岬付近海域は難所と海に関して素人の私でも容易に想像がつかます。夜間沿岸の明かりもほとんどなく、船に乗っていれば幌灯台の灯火で船の位置や針路がわかり安全に航海できることでしょう。

雄冬岬に灯台があった時代には陸上からのアプローチが難しくなる冬季のメンテナンスに支障をきたすことがあったのかもしれませんが。これまでたどり着けなかった幌灯台を見学できたことに満足した私は、建て替えの本当の経緯をすっかり聞き忘れてしまいました。

幌灯台は小樽海上保安部から車でなかなかの距離、冬季の厳しい環境下でもメンテナンスにあたられている交通課の方のご苦勞を忍び、安全な船の航海を祈りつつ灯台を後に帰路につきました。

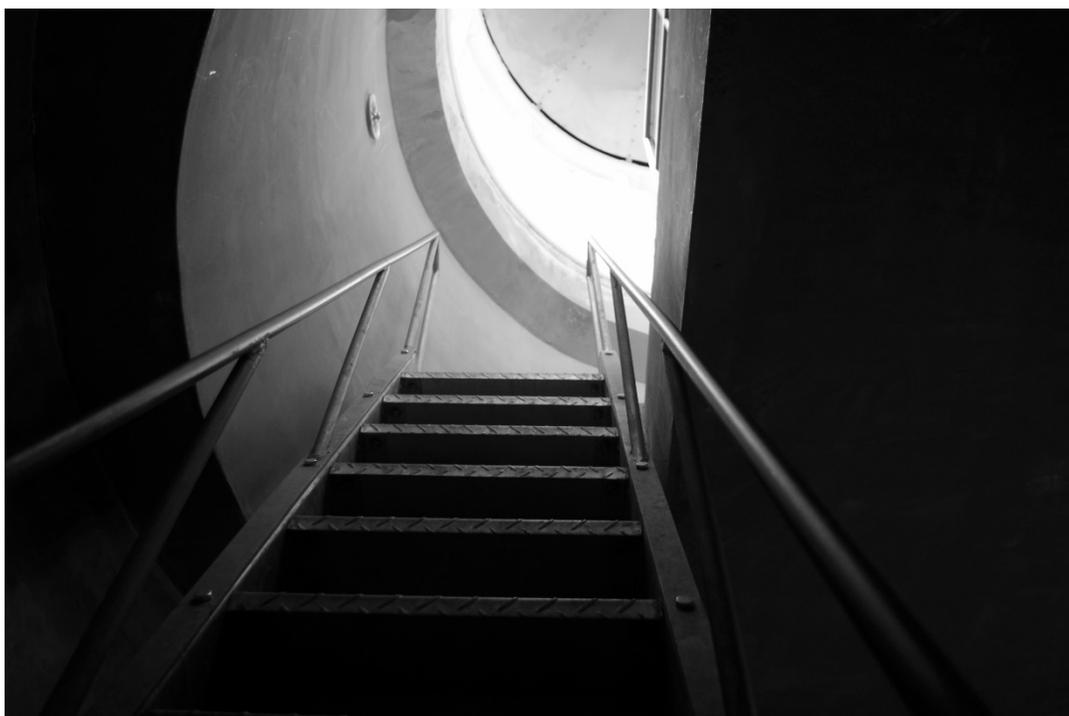
コロナ禍で大変ななか感染防止対策をとって幌灯台を公開していただき小樽海上保安部の皆様ほんとうにありがとうございました。



幌灯台



幌灯台から雄冬岬方向の眺め



灯室に上る階段

令和 2 年 1 0 月 2 6 日

## 灯台記念日に寄せて

### 岬めぐりランニング ～日和山灯台にて～

澤田奈緒美

趣味のランニングで、道内のいろいろな場所を走っています。最近岬巡りと称して、大好きな灯台を見るために走ることが多くなりました。石狩、幌、出岬、神威岬…どの灯台もそれぞれに特徴や個性があるので、ランニングで会いに行くという感覚です。公開に合わせて訪ねると灯台の内部も見学することができるので、それも醍醐味の一つです。

日和山灯台の歴史は古く、1883年から小樽の海を見守っています。小樽水族館のそばにあり、昨年リニューアルしたばかりの外壁は赤と白が鮮やかで、遠目にもよく目立ちます。夜、JRの車窓から海を眺めるとその灯りを目にするのですが、灯火が点灯する瞬間を間近で見たいと思い、夕暮れ時に日和山灯台に向けて走ってみることにしました。

ラン仲間とよく走るコースの最終目的地を日和山灯台にして、潮風が心地よい海沿いの道を塩谷から高島岬に向けて走ります。水族館の近くまで来ると、いよいよその姿が見えてきました。もう少し、あと少し…と思いながら走っていると、まるで私達を待っていたかのように灯室に柔らかい光が灯りました。日和山灯台までの道のりは最後の坂道がきついので、息を切らしながら上っていきます。灯台のそばまで来ると辺りはだんだんと暗くなり、先ほどまで柔らかかった光がどんどん力強さを増していきました。光芒がはっきりと見えるようになり、遠くまでその灯火が届いているのが確認できます。濃紺の夜空に灯室とお月様が美しく映え、ふと見上げると一筋の流れ星まで…まるで童話の世界のようです。遠くを眺めると、以前に訪ねたことのある幌灯台と石狩灯台の灯火も見えました。この灯りが、365日休まず海の安全を守っているのだなあ…そう思うと、より一層頼もしいものを感じられました。私達の他にも灯台好きの方が来られていて、ファンが多いことを嬉しく思いました。

大満足の日和山ラン、次の岬巡りはどこにしようか…地図を眺めながら、週末のランニングを楽しみに過ごす毎日です。



月と日和山灯台



夕暮れ時点灯直後の日和山灯台

令和 2 年 1 月 1 2 日

## 灯台記念日によせて ～日和山灯台の一般公開に参加して～

加藤 敬

江戸時代から明治初期にかけて弁財船（北前船）の出港の際、天候を推測する（日和る）場所として、また、航路目標のためにも重要な山であったとされる小樽市高島岬には日和山灯台があります。灯台記念日の 11 月 1 日、日和山灯台の一般公開とライトアップが行なわれ、見学する機会に恵まれました。時折雨が降り、強い風の吹くなか、公開を待ちわびた多くの市民が灯台を訪れ、近くの駐車場は来訪者の車であふれ、灯室内部の見学に行列ができるほどの人気でした。日没後にも、灯台を見下ろせる展望台に多くの人が集まり、ライトアップされた灯台や光芒にカメラを向けてシャッターを切っていました。

この灯台が所在する日和山は 2018 年（平成 30 年）5 月に日本遺産に追加認定されました。小樽港開港 120 周年にあたる昨年の 2019 年（令和元年）には、灯台の外壁の塗装、内壁と展望踊り場の改修、天井の補修、灯台に通じる道の舗装や敷地内整備など 33 年ぶりの大改修が行われ、外壁の紅白の縞模様が鮮やかになりました。この日、公開にあわせて飾りつけられた万国旗が彩を添えていました。

灯台の展示室には、光源に使われたアセチレンガス灯器やレンズ、灯台用電球や現在主流の LED 灯器が並べられ、1985 年（昭和 60 年）まで灯台守が滞在したころの建物の写真や平面図など貴重な資料が展示されていました。日和山灯台は、根室市にある納沙布岬灯台に次いで北海道内 2 番目に古く、1883 年（明治 16 年）10 月 15 日に初点灯されたそうで、日本初の西洋式灯台である観音埼灯台（1868 年 11 月 1 日起工、1869 年 2 月 11 日（旧暦 1 月 1 日）初点灯）に遅れることわずか 14 年後であったことなど、小樽海上保安部の職員の方から灯台の沿革についても丁寧な説明がありました。

灯室内では新しい回転式灯器の前面レンズを開放して見せていただきました。3 5 キロ沖の船まで光を届かせるという灯器のメタルハライドランプは予想していた以上に小さいなという印象でした。一緒に見学していた小中学生の子供たちも興味津々の様子でした。

多くの外国船が出入する小樽港近くの日和山灯台は、船の安全な航海を支える重要な役目を担っています。一般公開に訪れて灯台を見学し、説明を受けて、私たち小樽市民にとっても、日和山灯台が、観光、自然観察、憩いの場、あるいは北前船寄港以来の小樽の歴史を学ぶために、なくてはならない場所であると再認識しました。

公開にあたり、展示の準備、新型コロナ禍での安全対策、雨の中でのライトアップから最後の

【機密性 1 情報】（友の会会報誌）

かたづけまで小樽海上保安部の職員の方々のご苦勞は大変なものがあったと思います。私たち小樽市民のために、また、多くの灯台ファンのために、今後とも灯台の一般公開の機会をつくっていただきますよう宜しくお願いします。



日和山灯台の外観



日和山灯台での灯台機器及び灯台パネル展示の様子



日和山灯台灯室の様子

令和 2 年 1 月 2 4 日

## ～灯台記念日に寄せて～ 夫婦で石狩灯台を訪れて

徳梅 真

木下啓介監督の映画「喜びも悲しみも幾年月」のロケ地となった石狩灯台が、灯台記念日の 11 月 1 日にライトアップされると聞いて夫婦で出かけました。

灯台に到着した時にはすっかり日も暮れて、漆黒の闇の中にライトアップされた石狩灯台がくっきりと浮かびあがりました。灯台から放たれる光芒は、はまなすの丘の砂丘を越えて石狩湾の沖に向かって伸びていました。光芒の一部が砂丘の高くなったところをわずかに照らし、光の方向を示していました。

妻と二人、ライトアップされた灯台とそこから放たれる光芒を暫く眺めながら、何とも言えない雰囲気の中、静かに流れる時間を過ごしました。

灯台のそばに立つ「はまなすの丘ビジターセンター」に移動すると、そこには石狩灯台で使われたレンズやそれを回転させる装置が展示されていました。小樽海上保安部交通課の方から、石狩灯台の初点灯が 1892 年 1 月 1 日（明治 25 年）であること、明治から昭和にかけて灯台が立つ石狩川河口が港として賑わい、多くの船が出入りする重要な場所であったことなどの説明がありました。また、石狩灯台が赤白の縞模様なのは、カラー映画を撮る木下啓介監督の要請に応じて、灯台を赤白に塗装することを許可したのが始まりであると聞きました。海上保安庁の対応が当時としては随分柔軟であったものだと思います。

映画撮影当時のモノクロの写真も展示されていました。写真を見て子供の頃の思い出がよみがえりました。

私が小学校 3 年生の時、父は釧路海上保安部警備救難課に勤務しており、私たち家族は釧路埼灯台そばの官舎に住んでいました。霧のかかる時期、鳴り響く霧笛の音で官舎の建物が大きく揺れました。子供だった私は、地震が来たかと驚いたものでした。

そんな昔のことを思い出しているうちに、航海の安全のために灯台を守ってきた歴代の職員、灯台での厳しい環境の下、生活を共にした職員家族に対する尊敬の念が自然とわいてきました。

11 月 1 日は妻の誕生日でもあり、美しくライトアップされた石狩灯台を見ることができたことを妻はとても喜んでくれました。私たちは石狩灯台で、記憶に残るとても素晴らしい時間を過ごすことができ、特別な日となりました。

灯台のライトアップイベントを企画していただいた石狩市と小樽海上保安部の職員の方には、本当に感謝しています。



ライトアップされた石狩灯台①



ライトアップされた石狩灯台②

令和 2 年 1 1 月 2 5 日

## ～美しい島で巡視船と灯台をめぐって～

岩井容子

数年前、旅行から戻った友人の「巡視船がいっぱいいたよ」という一言を聞いてから、いつか必ず行ってみたいと思っていた場所、石垣島。このたび願いが叶って行くことができました。

秋の終わりの北海道を出発、中部国際空港を経由して石垣空港へ到着すると、ハイビスカスの花が咲いていました。道産子の私にとって石垣島は暑く感じられ、同じ日本の北と南の気温差に驚きました。

今回、旅の目的地としていた石垣港を最初に訪れました。港には、白い船体に青いS字マークの巡視船が5隻も並んで停泊していました。その勇壮な姿を目の当たりにして感激するとともに、国境最前線の緊張感を感じました。



石垣港に着岸中の巡視船



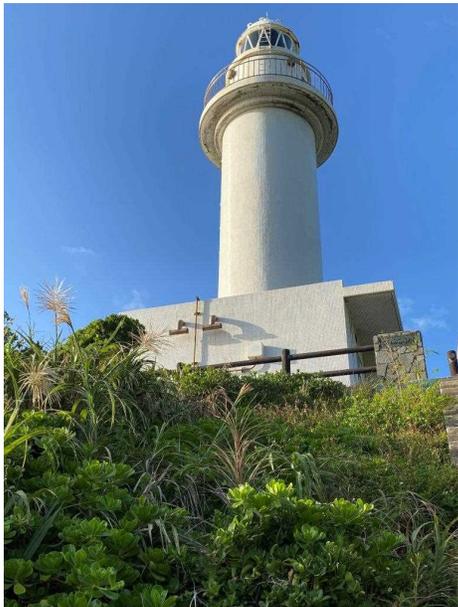
平久保灯台

今回の旅行では、生まれて初めてスキューバダイビングにも挑戦しました。重いボンベを背負い、フィンを着けて体の自由が制限されました。海保の潜水士の大変さをほんの少し体験することができました。

観光では南の島の灯台を巡りました。

くしも灯台記念日の11月1日、地元小樽では日和山灯台が一般公開されている頃だろうと想像しながら、島内最北端の平久保埼灯台に向かいました。灯台カードのQRコードが灯台に貼ってあるのが見えたが、残念ながら入口にロープが張られていて近づけませんでした。

次に石垣御神埼灯台へ向かいました。これは「いしがきおがんさきとうだい」と読むそうです。ここでは珍しい名前の灯台カードを手に入れることができました。



石垣御神埼灯台



石垣御神埼灯台の看板

最後に、琉球観音埼灯台を訪れました。今回は時間がなく、日没時の光景を楽しめませんが、ここは島内最西端に立つ灯台でサンセットスポットだそうです。今回訪れた3つの灯台とも、青い空とエメラルドグリーンの海を背景に立っていて、その姿に魅せられました。



琉球観音埼灯台



琉球観音埼灯台の看板

最終日、巡視船にお別れを言い、港へ行くと、これから出港する巡視船の乗組員を見かけました。海上保安官の表情から、国境最前線に向かわれるのだと感じました。

私は「ご苦労様です。がんばってください。応援しています」と小さい声でつぶやきました。

令和 2 年 1 1 月 2 5 日

## うみまる君、大活躍！ ～レールカーニバル in おたる～

澤田奈緒美

小樽市では毎年、廃線となっている旧手宮線を利用して「レールカーニバル」が開催されています。中央通りから道道小樽港稲穂線までの区間を、足漕ぎ軌道自転車（トロッコ）で走るという大人気のイベントです。北海道鉄道文化保存会、地元の方々に支えられているこのイベントに、私もボランティアとして参加させていただきました。昨年に引き続き、海上保安庁のマスコット、うみまる君もゲストとして参加してくれました。

第一種制服姿のキリリとカッコいいうみまる君が登場すると、子どもたちの瞳がキラキラ輝きます。駆け寄ってきて抱きつく子、手をつないで離さない子、一緒に写真を撮って喜ぶ子…みんな、とびきりの笑顔です。トロッコのお客さんも、うみまる君に興味津々。「何のキャラクターなんですか？」と聞いてくださった方には、海上保安庁のマスコットであることを説明し、パンフレットやグッズなどをお渡しして広報活動を行いました。



レールカーニバル in おたるに訪れた子供たちに大人気のうみまる

トロッコに乗車されるお客さんとの写真撮影で、大忙しのうみまる君。ひと段落ついたところで、ふとこんなアイデアが頭に浮かびました。「うみまる君がトロッコに乗ったら、かわいいと思いませんか？」S L タイプのトロッコ「てみ・てんぐ」号なら、体の大きなうみまる君も乗れるかもしれないとのこと。スタッフ数人がかりで抱きかかえるように、よいしょと後部座席に乗せました。ちょこんと座ったうみまる君を乗せてトロッコが走り出すと、すれ違う人たちがその姿を目で追います。「あれ見て！」「わあ、かわいい！」写真を撮る方もいて、ここでもうみまる君は人気者でした。

大盛況のうちにレールカーニバルは終わり、たくさんの方々が笑顔で帰られました。初めてこのイベントのお手伝いをしましたが、旧手宮線を大切にされている方々の熱い思いを感じた 1 日でした。イベントを盛り上げるのに大活躍してくれたうみまる君、ボランティアとして参加して下さった小樽海上保安部の皆さん、楽しい時間をありがとうございました。



トロツコに乗ったうみまる①



トロツコに乗ったうみまる②



トロツコに乗ったうみまる③

令和 2 年 1 1 月 2 7 日

## **今年は海浜清掃ボランティアに替えて環境作文コンクール企画開催**

丹羽祐而

私は、「浜辺と海をきれいにする会」という名称のボランティア団体の会長をしています。何をしている集いであるかと言うと、読んで字の如く、海浜をきれいにする活動をしています。毎年 9 月の第一日曜日に札幌、小樽の隣の石狩浜のごみ拾いを実施し、令和 2 年 9 月で 4 2 年目を迎えました。私のこの会との関わり合いは、友人の声掛けにより第 1 回目から参画しています。以降、他人の捨てたゴミ類を、理屈抜きに汗を流しながら楽しそうに拾っている団体の一人として今日を迎えているわけです。当会の核になる実行スタッフは、さまざまな業種の多士済々の実に頼もしい顔ぶれであります。私は二代目の会長となっていますが、ボランティア活動全体の空気創り役がメイン業務と認識して、楽しみながら稼働しております。

ところで、20 余年程前よりごみ拾い実践日を 9 月の第一日曜とし、雨天決行としています。このごみ拾いボランティアの来浜者数ですが、老若男女合わせ毎回大凡 1000 人位となっています。今まで浜に来てゴミを拾った人数を概略計算してみますと、40 年間×1000 人で 4 万人近くという膨大な数字となります。これだけの人達が地球環境保全のために、浜辺で汗を流したと言うことになるわけです。

長い時間の中でユニークな企画を立てたこともあります。十周年（1988 年）記念には、ごみ拾い作業あとの綺麗になった浜で、砂による彫刻制作コンテストを開催したことがありました。綺麗になった浜は、一挙にアートフェスティバルの会場と変化したものです。

さて、4 2 年目のごみ拾い実施日である令和 2 年 9 月 6 日ですが、残念ながら中止となってしまいました。風雨や台風が到来してもこれまで一度も中止せず実施していたのですが、苦渋の決断で初めての中止としました。原因は、周知の新型コロナウイルス出現でありました。なにせ眼に見えない相手で、会場が海辺で環境が良いとは分っていても絶対安全であるとの確証は皆無なわけです。まして、他人が捨てたゴミを拾い、尚かつ地球環境を守ろうとする人達を危険な目に遭わせるわけにはいきませんでした。しかし、当会のメンバーはなかなか強者ぞろいですので、中断することを結論にはしませんでした。そこで、協議を重ね振り替え企画として起用したのが、小学生を対象にした作文コンクールの開催でした。学校側も新型コロナ禍問題で大変な状態とは思いましたが、多くの先生方の理解と協力が得られ実現可能となりました。メインテーマは「プラスチックごみを減らし海をきれいにすること」で、題名は自由とし、応募の締め切り日は、本来の浜辺でのごみ拾い実施日である 9 月 7 日としました。

ところで、裏方の話しですが、締め切り一週間前までは殆ど応募がなく、我々主催者側は失

望落胆の雰囲気となりました。が、締め切り直前に、何と 1800 点ほどの作文がドット届いたのです。急転、喜ばしい状況となったのですが、それ以降の審査段階は嬉しい悲鳴となったわけです。最終審査は、大学教授、小学校の先生三名、女流作家、小樽海上保安部長と当会の二名の計八名でおこない各賞を決めました。審査段階での印象は、環境問題が学校教育でかなり取り上げられていると理解できました。また地域及び家庭教育等においては、やはりテレビによる学びが多いようにも思いました。ともあれ、次世代の主役である子供達の環境に対する意識は高くなっていると感じました。

最後にユニークな支援のことを付記します。10数年前より海上保安庁が当会に強く関心を持たれ、ゴミ拾い当日、大型飛行機で石狩浜に激励飛行を挙げて頂いております。それを受けて、1000 人程のごみ拾いの人々が大空に舞う機に向かって手を振ったり、拍手をしたりしています。この光景はとても感動的な空気をもたらしてくれています。今や、石狩浜の風物詩の一つにと表しても過言ではないと思います。石狩湾でのこの素晴らしいドラマ、令和3年9月5日に再度観賞してみたいと今から念じています。そのころは、ウイルス騒動は終息していることであらましよう。



写真左：石狩浜でゴミ拾いをする1000人近くのボランティア



写真右：石狩浜で1000人近くのボランティアが拾い集めたゴミ



石狩浜上空を飛んでいる海上保安庁の飛行機

令和 2 年 1 2 月 1 0 日

## 明治期建設の木造弁慶岬灯台

山本雅晴

寿都町にある弁慶岬灯台は 1890（明治 23）年 12 月初点灯で、今年満 130 才を迎えます。無等灯台の灯塔は 4 角形が福山、鷗島、弁慶岬、増毛、花咲、浦河、幌泉の 7 基あり、その中ではっきりしている写真があるのは**弁慶岬灯台**です。

※ 灯台で使用されているレンズは大きい順に 1 等から 6 等までと、6 等より小さい無等があり、その大きさはレンズの焦点距離で決められています。1 等レンズを使っている灯台を 1 等灯台、無等レンズを使っている灯台を無等灯台といいます。

寿都町教育委員会提供の写真（寿都町総合文化センターの文化財展示室）から

- 1) 日時計（日き儀（にっきぎ））
- 2) 北海道の灯台施設の特徴である灯塔と官舎などを結ぶ渡廊下の設置状況が分かります。

逓信省第十四年報 M32「標識附属建物等ノ逓信省経費ヲ以テ新営シタル其概算費」に**渡廊下新設 68 円**の記録があります。

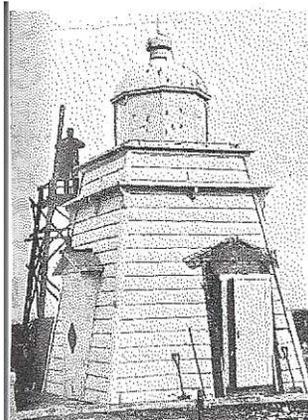
高さ一丈六尺（約 4.8 メートル）の**弁慶岬**灯台は宮大工出身の相澤宇三郎氏による建設と考えられており、相澤氏の手掛けた灯台は、禄剛埼、立石岬、葛登支岬、白神岬の各灯台があります。また、多くの木造灯台は戦後まで存続していました。

弁慶岬灯台は 1 9 5 2（昭和 2 7）年に木造からコンクリート造に改築されています。翌年の 1 9 5 3（昭和 2 8 年）8 月 1 日には航路標識事務所制が発足し、全国に 2 5 4 か所の航路標識事務所が誕生しました。弁慶岬航路標識事務所もその一事務所として職員が常駐、1 9 6 3（昭和 3 8）年に茂津多岬航路標識事務所と統合し、その保守管理を長万部航路標識事務所が行うことになったことから、完全無人化となりました。（現在は小樽海上保安部が保守管理しています。）

また、1 9 7 7（昭和 5 2）年に白灯台から紅白横線塗りの灯台に改築されています。

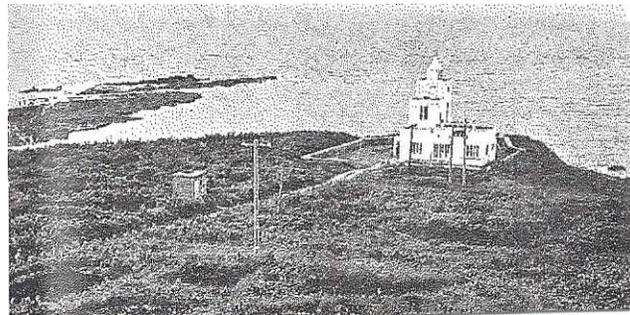


（寿都町総合文化センターの文化財展示室 写真提供、寿都町教育委員会より）



旧弁慶岬灯台

初代 木造



二代目 コンクリート造

（左右：「写真でみる灯台文化九十年」昭和31年8月30日発行（社）燈光会所蔵）

灯台付近には、源義経伝説で有名な武蔵坊弁慶の石像があり、寿都町の観光名所のひとつとなっています。また灯台下は磯釣りのメッカとなっていることから通年、釣り人で賑わっています。



現在の弁慶岬灯台と弁慶の石像

令和 2 年 1 2 月 2 8 日

## 大迫力！ しれとこ・りしりゴムボート訓練を見学して

澤田奈緒美

1 1 月 2 4 日・2 5 日、小樽港第 2 埠頭周辺で、小樽海上保安部の巡視船「しれとこ」、稚内海上保安部の巡視船「りしり」によるゴムボート訓練が行われました。今回の訓練は、東京オリンピック・パラリンピック開催時の海上警備に向けてのものだそうです。訓練項目は、基本操船訓練（スタントレイル・サイドレイルなど）、規制訓練（1 対 1・1 対 2 での規制、周回規制、1 対 1 の接舷規制、1 対 2 での挟撃規制）などでした。

目の前で、まるで海面を滑るように進んでいく 4 艇のゴムボート。スピードがぐんと加速し、操船するための舵輪が右へ左へと回転すると、ゴムボートがバウンドしたり、大きく斜めに傾いたりします。振り落とされるのではないかと思うほどの激しい動きの中で、保安官の皆さんはしっかりと姿勢を保ち、デモ艇のゴムボートを追っていました。2 艇が協力して追尾し、行く手を阻むように左右から回り込むのですが、ぶつかってしまうのではないかと思うほどのわずかな距離で、それぞれのゴムボートがすれ違っていきます。操船する方が舵輪を小刻みに動かしており、それがあまりに見事で、まばたきもせずに見入りました。ゴムボートが行き来するたびにザブンと波が起こり、近くに停泊している船も大きく揺れます。随分と波が立つのだなあと思いましたが、後で聞いたところ、逃走しようとするデモ艇の行く手を阻むためにあえてそうしているのだそうです。

私が夢中になって訓練を見ていると、巡視船の乗組員の方が、「船がお好きなんですか？」と笑顔で声をかけてくださいました。私が友の会のメンバーだということをお伝えすると、訓練の内容について丁寧に教えてくださいました。ゴムボートの動きを目で追いながら説明を聞くと更に分かりやすく、より臨場感を感じられました。同時に、海上保安官の皆さんが、ファンを大切にしてくださいることをとても嬉しく思いました。

2 時間ほど訓練を見学しましたが、岸壁に立っていると足元から冷気が伝わり、訓練の最後の方では黙っていても震えが来るほどでした。寒風吹きすさぶ洋上では、もっともっと寒さを厳しく感じることでしょう。そんな中、熱心に訓練を繰り返す海保の皆さん。仕事への志の高さを感じ、本当に頭が下がる思いでした。



訓練写真①



訓練写真②



訓練写真③



訓練写真④



訓練写真⑤

撮影：海上保安友の会札幌支部 加藤氏

令和 2 年 1 2 月 2 8 日

## **見たい！ 知りたい！ 海上保安庁 ～出前講座で海保の仕事を学ぶ～**

澤田奈緒美

小学校 3 年生の社会科では、消防・警察の仕事について学習します。海上保安庁は海でその両方の役割を担っており、本校で海難防止啓発アニメの DVD を全校視聴したつながりから、出前講座をお願いすることになりました。どんな内容の学習なのか、子どもたちも先生方も興味津々。当日は、総務の先生方や管理職も見学に来るほどでした。

学習内容は大きく分けて、①海上保安庁の業務内容 ②灯台について ③レスキューについての 3 つでした。海上保安庁の P R 動画の視聴からスタートすると、迫力のある映像に子どもたちは目を見張ります。続いて、海上保安庁の仕事、巡視船艇や航空機などの紹介、1 1 8 番通報についての説明などがありました。海上保安庁クイズでは、子どもたちは元気いっぱい手を挙げていました。灯台についての学習では、灯台の歴史やその役割について学びました。2 つの灯台（指向灯）を上下に重ね合わせて見ることで船の位置を知る方法を、両手の指を使って実際に試してみるなど、子どもたちにも分かりやすい内容でした。レスキューについての学習では、潜水士が船内捜索をしている様子などを動画で視聴しました。専門用語も理解しやすい言葉で説明してくださり、現場で使用する資器材も見せていただきました。最後は、右手の拳を左胸に当てる潜水士の敬礼をみんなですて、学習を終わりました。

出前講座が終わった後、子どもたちからは、「大変な仕事がたくさんあるけれど、人の命を守るために頑張っていてカッコいいと思いました。」「自分も海を守りたいという気持ちになりました。」という感想が聞かれました。もっと詳しく知りたいという子どもたちのために、海上保安官さんに聞いてみたいことを小樽海上保安部に送ることにしました。質問の数は、3 クラス合わせて何と 3 2 個。後日、すべての質問に丁寧に答えてくださったお手紙が届き、子どもたちも担任も大喜びです。読んで聞かせると、その内容に驚いたり、感心してうなずいたり…熱心にメモを取っている子が何人もいました。

いろいろな職業に触れ、そのやりがいや現場の人に聞くことで、子どもたちの将来の夢の幅も広がってくると思います。教え子の中から、海上保安官を目指す子も出てくるかもしれません。小樽海上保安部の皆さん、貴重な学びの機会をありがとうございました。



海上保安庁出前講座①



海上保安庁出前講座②

令和 3 年 1 月 1 7 日

## 北海道の夜明け – 北の燈霧（とうぎり）物語 – に寄せて

徳梅 真

札幌支部会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。会長の徳梅です。

いまだに新型コロナウイルス感染症の収束を願う今日この頃ですが、今後も油断せずに引き続き気を付けてこの難局を乗り越えてまいりましょう。

さて、今回投稿をさせていただきますのは、去る 1 月 5 日から札幌市中央区の北海道生涯学習推進センター「情報交流広場（まなびの広場）」で開催され北海道生涯学習センターと札幌灯霧（とうぎり）資料調査会が主催の資料展を見学して参りました折のことを紹介させていただきます。

1 月 1 7 日（日）に見学に参りましたところ当日は休みだった為、諦めかけた時に会場の中に男性の方がおられまして資料調査会の代表をされておられる山本雅晴様でした。休みにも関わらず待機されておられて快く内部を案内していただき感謝でした。

さっそく、北海道の洋式灯台 2 8 基のペーパークラフトの展示物を拝見したのですが、現在は 2 3 基の灯台が稼働しているということでした。明治 4 年から 3 3 年までに建設された灯台を 1 0 0 分の 1 に統一したペーパークラフトを見るに私も父の転勤で灯台官舎での生活を送ったこともあり当時の記憶が蘇り大変懐かしく有意義な時間を過ごさせていただきました。代表を務めておられる山本様も元釧路海上保安部次長を務めておられたとのことでした。

海上保安庁といえば、とかく巡視船艇、航空機や海猿などがメディアや紙面などに登場することはありますが、「灯台」のことはあまり紹介を受ける機会が少ないように感じます。しかしながら船舶の航行にはなくてはならない存在であり、大切な設備であることには変わりはないわけです。

一時間ほどの時間でしたが、山本様の熱心な説明に熱いものを感じた次第ですが、是非とも会員の皆様方に置かれましてもこのような機会がまた開催されます時は足をお運びいただければと思います。

冒頭にも触れましたが、新型コロナウイルス感染症が続く限り、支部としてのイベント開催等が厳しく、また今年も羽田沖の総合訓練も東京オリンピック・パラリンピックの開催で中止が決まっており申し訳ない気持ちですが、収束をした際には思う存分要望を伝えて甘えさせていただきます！

# 北海道の夜明け — 北の燈霧(とうぎり)物語 — 西洋式灯台28基 鳥になった気分で眺めてみませんか!

主催:北海道立生涯学習推進センター、札幌灯霧(とうぎり)資料調査会

主管:(公財)北海道生涯学習協会



2021年1月5日(火)~1月29日(金) 北海道立生涯学習推進センター「情報交流広場(まなびの広場)」  
9時30分~16時30分(土曜・祝日休み \*1/29は15時まで)【入場無料】 かでる2・7 9階 (札幌市中央区北2条西7丁目)

令和 3 年 1 月 2 5 日

## 明治期の北海道内西洋式灯台 28 基のペーパークラフトなどを展示

札幌支部事務局

札幌市内にある北海道立生涯学習センターで 1 月 5 日から 29 日までの間、北海道内の西洋式灯台 28 基のペーパークラフトが展示されました。これらは明治 4 年から明治 33 年までに建設された灯台を 100 分の 1 の統一したスケールで制作したもので、灯台の写真や説明資料とともに建てられた年代順に並べられました。珍しいものでは、函館港の入口にあった浅瀬を示すため船に灯火を掲げた函館灯船（明治 4 年設置）、道内初の鉄製灯台である宗谷岬灯台（明治 18 年初点灯）、白色の灯台が多い中で突然赤い色の灯台が建設された神威岬灯台（明治 25 年初点灯）のクラフトも含まれています。展示期間中の日曜日には、このイベントの主催者である札幌灯霧資料調査会の代表で海上保安友の会札幌支部メンバーでもある山本雅晴氏（元釧路海上保安部次長）が、展示会場で道内灯台の歴史について解説されました。霧が発生した際、船舶に灯台の方向を音（霧信号）で知らせる霧鐘が宗谷岬灯台にも取り付けられ、機械で鐘を鳴らして霧信号を自動的に発していたとの話がありました。このような当時開発中の多くの技術が北海道内の灯台で試されたことなどが紹介され、山本氏らが過去の資料を調査して判明した貴重な話を聴くことができました。

「灯台建設は北海道開発とともに進められたもの。明治期の灯台建設の順序を見ると当時の北海道開発の歴史を知ることができる。多くの人に灯台を通して北海道の歴史を知ってもらいたい」と山本氏は話されました。札幌灯霧調査会による灯台ペーパークラフト展は平成 29 年（2017 年）から毎年札幌市周辺で開催されており、今回で 6 回目となる。これ以外にも初点からの節目となる年を迎える道内各地の灯台付近で開催されています。



展示会場で解説される山本雅晴氏

【機密性 1 情報】（友の会会報誌）



函館灯船のペーパークラフト左下



左：宗谷岬灯台のペーパークラフト中央奥



右：神威岬灯台のペーパークラフト赤色のペーパークラフト

令和 3 年 2 月 1 日

## 第一管区警備救難競技会小樽海上保安部予選会を見学

高橋 司

12月15日、小樽海上保安部武道場で第一管区警備救難競技会の小樽保安部予選会が行われました。予選会には小樽海保の所属巡視船から6チーム12名が参加し、救助技術を競い合いました。今回、海上保安友の会会員には特別に競技会場への立入が許可され、予選会を間近で見学させていただきました。

競技内容は海難救助の基本となる「基本結索」「心肺蘇生法と自動体外式除細動器（AED）の取扱い」「空気呼吸器（ライフゼム）を装着しての要救助者搬送」の3種目について正確さと素早さが採点されました。

最初の種目は「基本結索」です。競技者が「もやい結び」「巻き結び」、体に巻き付けて命綱として使う「コイル巻きもやい結び」などを手際良く完成させると、審査員の巡視船ほろべつ潜水士がストップウォッチで時間を計測しつつ、ロープ端末の長さや輪の大きさ等の細部まで厳しくチェックして採点審査されているのには驚きました。

次の種目は、2名1組での「心肺蘇生、AEDの取扱い」です。①要救助者に見立てたダミー人形を使用して要救助者の呼吸や反応の確認②近くにいる人へ119番通報とAEDの手配を依頼③胸骨圧迫による心臓マッサージ④心停止した人へのAEDを使用しての電気ショックの手順で行われます。今回は、新型コロナウイルス感染防止対策として要救助者役の人形の口にはハンカチをかぶせ、マウスツーマウスの人工呼吸は省略されました。心臓マッサージでは、各チームとも回数をカウントする声に力がこもり、実践さながらの迫力を感じました。

最後は2人一組で空気呼吸器（ライフゼム）を装着しての要救助者の搜索と搬送です。競技者は空気呼吸器のベルト、ホース、マスク、圧力調整器の一つ一つの点検を呼称しながら素早く済ませると、約10kgの空気呼吸器を装着します。装着後はマスクのベルトの緩み、ボンベの装着位置、ベルト端部の処理まで審査員から厳しくチェックされていました。

空気呼吸器装着後は、要救助者の搜索、搬送です。全力で廊下を走り抜けて、途中障害物に見立てたロープを潜ります。その後発見した要救助者役の巡視船ほろべつ潜水士を二人で抱え、再びロープを潜り、スタート地点まで搬送します。空気呼吸器を背負い、マスクをしての要救助者の搬送は屈強な海上保安官にとっても大変そうで、競技直後にはマスクを外し、息を弾ませ汗をかいていました。

各チームとも日頃の訓練の成果をいかに発揮されていたように思います。当日の小樽の

【機密性 1 情報】（友の会会報誌）

最高気温はマイナス 5℃でしたが、競技会場内は海上保安官の「要救助者を必ず助ける」という気迫と熱気に溢れていました。

小樽保安部予選会での優勝チームの結果は本部救難課に報告され、他の部署からの結果とあわせて管区としての最優秀チームが 2 月上旬には決定されるそうです。小樽海上保安部のご厚意により、日頃訓練された海上保安官の高い救助技術を直接見る貴重な機会をいただきました。本当にありがとうございました。



結索



心肺蘇生



空気呼吸器装着



要救助者搬送

令和 3 年 2 月 8 日

## 「海のもしも」は 1 1 8 番！ ～ 1 1 8 番周知活動～

澤田奈緒美

小樽海上保安部から 1 1 8 番の日に合わせて、小・中学校にポスターやリーフレットが配付されました。札幌市 2 9 9 校、小樽市 2 9 校、石狩市 1 6 校に配付され、本校にも篠田麻里子さんのポスターが届きました。さっそく廊下に掲示していると、その様子を見ていた子どもたちから、「海上保安庁のポスター、新しくなったんですね！ 制服が前と違いますか？」と声をかけられました。「前のは第二種制服といって、夏の制服。これは第一種制服で、冬に着るんですよ。」と説明すると、「白も良かったけれど、この制服もかっこいいです！」とポスターに見入っていました。修学旅行での巡視船見学、海の安全の DVD 全校視聴、出前講座と、何度もお世話になっている海上保安庁。子どもたちも、この 1 年で 1 1 8 番をしっかりと覚えました。

海の安全というと夏のイメージが強いですが、冬の海中転落の危険性についても教えておいた方が良いと思いました。最近特に、釣りに来た方が誤って岸壁から落ちたり、車ごと海中転落したり、痛ましい事故が頻発しているそうです。「冬の北海道では海水温が 1 0 度を切るので、海に落ちると一気に体温が下がります。どんなに泳ぎの得意な人でも低体温症で体が動かなくなり、5 分程で意識が遠のいてしまうそうですよ。」そう説明すると、子どもたちからは驚きの声が上がりました。釣りなどで海に行く時は必ずライフジャケットを着用すること、積雪で岸壁が滑りやすくなっているので気を付けることなど、注意を促しました。

小・中学校へのポスター・リーフレット配付の他に、海上保安庁のパネル展示が、ショッピングモールなどが入る「ウイングベイ小樽」で開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面での PR ができないので、オリジナルのクリアファイルに海保パンフレットや 1 1 8 番 PR 用リーフレットを入れて、気軽に手に取れるよう工夫されていました。多くの方がパネル展を見学されたようで、行く度にクリアファイルが減っていて、友の会メンバーも交替で会場を訪れ補充を手伝いました。

コロナ禍でイベント等は難しい状況ですが、様々な工夫で 1 1 8 番の周知活動をされている小樽保安部の皆さん。1 1 8 番をより多くの方に知っていただくことは、海で事故に遭った人の迅速な救助につながります。私も子どもたちへの安全教育で、そのお手伝いを続けていきたいと思えます。

【機密性 1 情報】（友の会会報誌）



札幌市立手稲中央小学校での118番ポスター掲示の様子



ウイングベイ小樽での海上保安庁業務紹介パネル展の様子

令和 3 年 3 月 1 日

## 海氷観測業務に向かう巡視船そうやを見送り

長谷山 豊

2 月 10 日、巡視船「そうや」がオホーツク海南西海域での海氷観測のため、小樽港を出港しました。第一管区海上保安本部の奥康彦次長、鈴木英一海洋情報部長、渡邊康顕海洋調査課長と並んで、私を含め海上保安友の会札幌支部のメンバー数名で出港を見送りました。（写真左から奥次長、鈴木海洋情報部長、渡邊海洋調査課長、友の会メンバー）

巡視船そうやは、毎年流氷がオホーツク海に来る時期、観測を担当する第一管区海上保安本部海洋情報部職員や、北海道大学の研究生などを乗船させ、観測機材を積み込むため小樽港にやってきます。オホーツク海で一週間ほど航海し、宗谷岬付近から網走沖にかけて搭載ヘリコプターを使用しての海氷の状態の観測や、搭載した機器を海に降ろしての海水温・塩分濃度などの観測を行うそうです。

例年だと大学の研究者や学生もそうやに乗船して観測をするのですが、今年はコロナ禍にあって、海上保安庁以外の方は乗船されなかったそうです。

友の会メンバーは、見送りの際に岸壁で UW（安全な航海を祈るの意味）の旗を掲げ、観測を終えて無事に小樽へ戻って来るよう祈りました。時折小雪の舞う中、そうや乗組員も船橋ウイングに立って、姿が見えなくなるまで手を振って応えてくれました。巡視船そうやによるオホーツク海での海氷観測は昭和 56 年（1981 年）にはじめられ、今年で開始から 40 年の節目となるそうです。



令和 3 年 3 月 1 5 日

## 巡視船が集う街、小樽

澤田奈緒美

「今日は、『巡視船ゆうばり』が入港していますよ。」海上保安友の会のメンバーから、嬉しい連絡が入ります。毎年、流氷が南下してくるこの時期には、渡り鳥が飛来するように巡視船が小樽港へ入港してきます。流氷観測のため、または流氷を避けて海上保安業務を行うためです。海上保安友の会のメンバーはこの時期をとて楽しみにしていて、普段はなかなか見ることのできない巡視船を撮影するため、入港を待ち構えて写真撮影を行います。

巡視船「ゆうばり」が入港したこの日、私も埠頭へ向かいました。昭和 6 0 年 1 1 月、網走海上保安部に配属されてから、長きにわたり北海道の海の安全を守り続けている巡視船です。聞くとところによると、船の形状から、入港する時にとて技術がいる船なのだそうです。その代わりに、プロペラのところに流氷が入り込まない構造になっているということでした。特徴的な 2 本のマスト、今では珍しくなったクルーザースターンと呼ばれる丸みを帯びた船尾の形…。歴史を感じる船体を眺めながら、寒さ厳しい北の海を守り続ける乗組員の方々に、感謝の気持ちを抱かずにはいられませんでした。

また、別の日に埠頭に向かうと、巡視船と思しき船のレーダーが回転しているのが遠くから見えました。息せき切って駆け付けると、ちょうど巡視船「そらち」が出港するところでした。船上で、てきぱきと準備を進めている海上保安官の皆さん。寒い時期は、よく目立つオレンジ色の防寒服を着用しています。船が岸壁から離れていくのを見守りながら大きく手を振ると、数人の保安官の方がこちらに向かって手を振り返してくださいました。後から聞いた話によると、この時は函館のドッグに向けての出港だったそうです。良いタイミングで埠頭に向かい、お見送りが出来たことをとて嬉しく思いました。

3 月に入って気温が上がり、少しずつ春めいてくると、埠頭のあちらこちらに巡視船が停泊する光景も見られなくなってしまいます。ちょっぴり寂しくなりますが…海上保安官の皆さん、また来年も、安全な航海で小樽までいらしてくださいね。海上保安友の会一同、心待ちにしております。



巡視船ゆうばり



巡視船そらち

♪♪ **原稿・写真募集中** ♪♪

会員皆様の本会報への投稿記事又は写真などをお待ちしております。

また、海上保安新聞への投稿もよろしくお願ひします。

次の送り先に郵送又は FAX にて送付してください。

送り先：海上保安友の会札幌支部事務局  
〒047-0007 小樽市港町 5-2 小樽海上保安部内

TEL0134-27-6118 FAX0134-23-9700